

1. 授業の概要(ねらい)

古代ローマとイタリア・ルネサンスに関わる古典を読む。

キケロは古代ローマの政治家にして最大の弁論家で、彼の弁論作品は欧米における古典教養の中核をなし、今日でも一流政治家のお手本になっている。

ダンテ『神曲』は中世ヨーロッパ最大の叙事詩で、古典古代の伝統とのつながりを鮮明に示すだけでなく、ダンテが生きた当時のフィレンツェやローマ教皇に対する厳しい政治的批判をも含んでいる。

マキアヴェリ『君主論』は、権謀術数を意味するマキアヴェリズムで知られるが、中世の理想君主論を脱して冷徹な現実から出発し、イタリアにおける国家権力のあり方を模索している。学問としての政治学の誕生を告げる画期的な作品である。

これらの古典作品を通して、人間と政治・社会のかかわりを当時の歴史的背景に照らして考察する。

2. 授業の到達目標

テキストの一字一句を厳密に読み、歴史的背景をふまえながら正確にその意味を理解できること

提示された論点について自分なりの解釈をまとめ、討論し、発表ができること

古典作品を読みながら、読む・書く・聴く・討論する・発表するという、日本語の基本的な運用能力を身につけること

3. 成績評価の方法および基準

予習課題の発表、およびグループ討論と全体発言における積極性による

4. 教科書・参考文献

教科書

佐々木毅 『マキアヴェリと「君主論」』 講談社学術文庫

5. 準備学修の内容

次回の予習課題を必ずこなしてこること

発声練習を自宅で毎日行うこと

6. その他履修上の注意事項

授業の冒頭で発声練習を毎回行うので、声を出すのが嫌いな者は決して受講しないこと

90分間ぼんやりしている暇はないので、集中力を切らさないこと

7. 授業内容

- 【第1回】 夏休みの読書発表
- 【第2回】 キケロ「カティリナ弾劾」
- 【第3回】 キケロ「弁論家について」
- 【第4回】 ダンテとその時代・『神曲』入門
- 【第5回】 『神曲』の読みどころとその魅力
- 【第6回】 ダンテと古代詩人たち・オデュッセウスの人物像の革新
- 【第7回】 『神曲』におけるフィレンツェ批判
- 【第8回】 『神曲』におけるローマ教皇批判
- 【第9回】 マキアヴェリとその時代
- 【第10回】 武器なき預言者
- 【第11回】 理想の君主：チェーザレ・ボルジア
- 【第12回】 マキアヴェリの軍事改革と軍隊論
- 【第13回】 マキアヴェリズムとは何か
- 【第14回】 イタリア戦争と人間の運命
- 【第15回】 「私のマキアヴェリ語録」発表会